



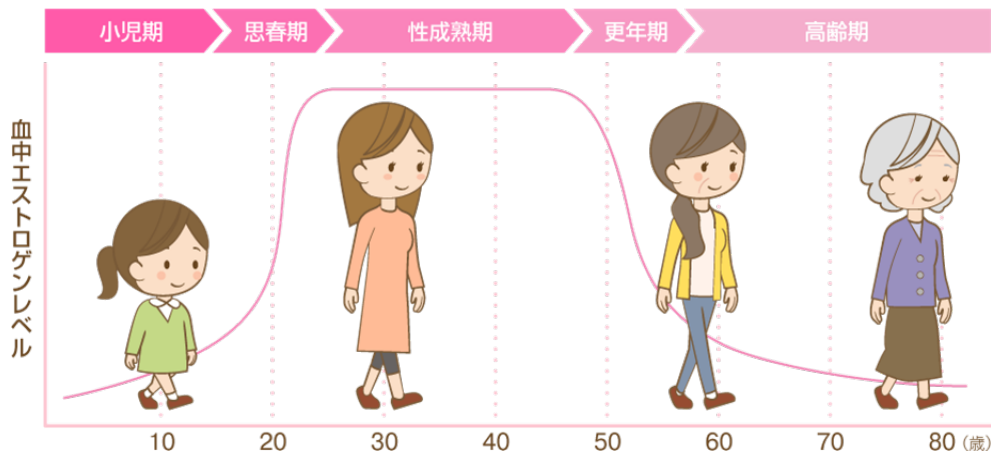
JNHS-II

日本ナースヘルス研究 次世代コホート
Japan Nurses' Health Study - The Next Generation

全国の女性看護職有資格者を対象にした次世代コホート研究
Japan Nurses' Health Study - The Next Generation (JNHS-II)
「女性の生活習慣と健康に関する疫学研究」

参加協力をお願い

2年に1回、10年以上にわたる長期の調査にご協力いただける
1972年～2000年生まれの看護職の資格をもつ女性を募集します！



女性保健医療従事者の健康増進に役立つ疫学エビデンス創生のために2001年に開始した「日本ナースヘルス研究(Japan Nurses' Health Study: JNHS)」をはじめとする「女性の保健医療従事者の生活習慣と健康に関する疫学研究(Japan-Study group on Nationwide Occupational cohorts of Women health professionals: J-SNOW)」は、わが国で初めての大規模女性保健医療従事者コホート研究として、これまで多くの知見を世界に報告してまいりました。

今回、次世代を担う22歳～50歳の看護職有資格者の女性を対象に新たな研究を開始しました。

月経関連疾患、不妊症、若年に発症する貧血、子宮内膜症、子宮筋腫、片頭痛など有症割合や女性ホルモン剤の利用、婦人科領域のがん検診といった女性固有の保健医療習慣の実態を把握することで、さまざまな症状や疾病の発症予防につながる若年時の生活習慣因子を探索することを目的としています。 ※JNHS-IIは、令和4年6月30日に群馬大学「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」の承認を得ました。

<問い合わせ先: J-SNOW (GNHS, JNHS, JNHS-II, JPHS) 研究事務局>

国立大学法人群馬大学 食健康科学教育研究センター内 (KA7-32)

〒371-8514 群馬県前橋市昭和町3-39-22

TEL&FAX: 027-220-8974 (平日9時~17時)

E-mail: j-snow-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp

ホームページ: <https://plaza.umin.ac.jp/~j-snow/>

JNHS-II 研究代表者 長井 万恵



JNHS-II看護専門委員会委員長 井本 寛子 (日本看護協会 常任理事)

J-SNOW運営委員会委員長 高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科 教授)

J-SNOW総括代表者 林 邦彦 (群馬大学 理事・副学長・特別教授)



< 経緯 >

米国ではハーバード大学で、1970年代から約25万人以上のナースを対象にNurses' Health Studyが実施され、女性におけるヘルスケア法の科学的根拠を世界で最も多く提供し、米国女性の健康問題の解明に大きく貢献してきました。

しかし、日本では女性の健康に焦点を当てた調査研究がほとんど実施されてきませんでした。遺伝的特徴や生活習慣、かかりやすい病気も異なる日本人に、米国で得られた知見がそのまま当てはまるとは限りません。

そこで、日本人女性の健康の維持・向上のため、日本看護協会の協力のもと、2001年から25歳以上の女性看護職約50,000人（コホート参加者としては15,019人）を対象に、Nurses' Health Studyの研究デザインを踏襲してJNHSを立ち上げ実施しています。

< 目的 >

わが国の女性の生活習慣や保健医療習慣の実態を把握するとともに、妊娠・出産、不妊などのリプロダクティブ・ヘルス関連事象や、各種疾患発症との関連を前向きに長期観察することで、女性の健康に真に有用となる生活習慣・ヘルスケア・保健医療習慣を見出すことを目的としています。

< 特徴 >

日本全国・47都道府県すべてに参加者がいます。

女性を対象としたコホート研究としては唯一、日本疫学会の「日本の大規模コホート研究」に登録されており、世界規模の女性コホート研究コンソーシアム「InterLACE」にも参加しています。

よくいただくご質問

何故、看護職（保健師、助産師、看護師）が対象なのか？

病気や薬剤などに関する高度な医学的知識をお持ちのため、ご自身の健康状態について正確に回答していただけることや、研究の意義・長期間に渡る継続調査の必要性を理解していただけることが期待できるからです。

何故、長期間の追跡が必要なのか？

参加者の方へは、参加登録から2年毎に定期調査票への回答をお願いしておりますが、皆さま全員からご回答いただくことが疫学調査では極めて重要となります。大勢の方のデータが必要なのは、稀な症状や疾患を調べる必要があるから、長期間のデータが必要なのは、日々の食生活や運動、薬、妊娠・出産、閉経状態などの「生活の積み重ね」が健康に及ぼす影響を調べる必要があるからです。

誰のため研究？

JNHSによって得られた知見は、将来の日本人女性の健康増進に役立つことが期待され、疫学調査の利益を得るのは主に未来世代の人たちです。一昔前の方々がかくれた医学知識や技術により今を生きている私たちが、子や孫の未来世代へ「健やかで穏やかな生活を営むための贈り物をする」という思いです。

調査にご協力くださる皆さまへお礼は、女性の健康に関する国内外の研究の紹介やJNHSの進捗状況・成果を掲載した「ニュースレター」による健康に関する情報のご提供です。皆さまの健康管理に少しでもお役に立てるように、毎年（11月～12月頃）「ニュースレター」をお送りします。

プライバシーは守られているの？

調査を通じて得られたデータやお名前、住所などのプライバシーの保護には十分配慮し、厳守いたします。個人が識別できる同意文書と調査票への回答とを切り離して異なる担当者が管理し、特別に必要な状況が発生しない限り、両者を連結することはありません。また、個人が特定できる形で結果を公表することは決してありません。

JNHSは、群馬大学「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」の承認を受けて実施しており、また、研究運営にかかわっていない第三者で組織されたアドバイザリーボードにより倫理的配慮と科学的合理性をもって研究が実施されていることを定期的に確認していただいています。

※ JNHS-II は、令和4年6月30日に群馬大学「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」の承認を得ました。